

もの言う牧師のエッセー… 第6話

「裸の大王」

東京・麻布の深夜の高級クラブ。艶やかなドレスに身を包むホステスのグラスになみなみとシャンパンが注がれる。グラスの下にはコースターの代わりに1万円札が10枚置かれていた。酒を飲み干せば全額が懐に入るというゲームだ。ホステスが目の色を変えて杯を空にするのは言うまでもない。

その様子を笑みを絶やさず見つめる男がいた。製紙業界大手、大王製紙の井川意高前会長47歳である。彼が、融資目的も不明なまま連結子会社から無担保で約100億円を借り入れた事実が2011年9月に発覚、同年11月22日に東京地検特捜部に特別背任の容疑で逮捕された。一連の騒動の中、この創業家3代目「エリート御曹司」の驚くべき私生活が明らかになった。

「マカオのカジノで1日で5億円負けた」や「勝ったら貰える100万円じゃんけん」などの豪遊ぶりを始め、本人の社長就任パーティーには中曽根康弘元首相やタレントの神田うのらが出席するなど、交友関係も誠に派手なセレブである。何せこの人物、小学生の頃は自宅のある愛媛から東京の進学塾までをジェット機で通っていたというからスゴイ。そんな彼を社員たちは『裸の大王』と揶揄していたらしい。かと言って彼はバカではない。実は東大法学部出身だ。企業人としても自社の赤字部門の黒字化を初め、製紙業界内における敵対的TOB（株式公開買い付け）を公正取引委員会を巻き込んで破談に追い込むなど、企業統治を体現するビジネスエリートである。聖書において

「あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しい者は何も無いと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。」

ヨハネの黙示録 3章 17節

と、神であるキリストは警告している。まず自分の愚かさを知り、神を信じることから、“裸”ではない本当の富を得よう。

2011-12-9

